



## 「新しい介護実態」の出現 全介護者(557万人)の半数以上(291万人:52.2%)は働いている

日本ケアラー連盟代表理事/立命館大学教授/男性介護者研究会代表

津止正敏

2000年4月の介護保険制度の導入によって、この国の介護はそれ以前とは随分と違った実態を作り出している。私は介護保険以降に顕著にみられるようになった介護様相の変容を「新しい介護実態」として実践と研究の対象としてきた。「新しい介護実態」とはどのようなものか、について記しながら、私に与えられたテーマ「働く介護者」を考えてみる。

### ●「想定外の介護者」の出現

「新しい介護実態」を私はおおむね次のように考えてきた。一つは、介護する人が、この社会でそれまで前提とされてきたものとはまったくその姿を異にするということである。先に公表された平成28年国民生活基礎調査は、介護する人される人がともに75歳以上という世帯が初めて3割を超えたと指摘している。それまで在宅で介護を担う人といえば「若くて、体力もあり、介護も家事も難なくこなして、介護に専念できる立場にあり、さらに介護者役割を内面化している」ものであり、女性・専業主婦をモデルとしたものであった。しかし、今この社会で在宅介護の役割を担っているのはこれとは真逆の介護者ばかりだ。「想定外の介護者」の出現である。夫や息子という男性の介護者とその抱える課題はこうした「想定外の介護者」のシンボリックな存在となった。



男の介護教室&男性介護ネット

### ●介護サービスの社会化

二つ目の「新しい介護実態」は、介護サービスの社会化である。半世紀前、この国で初めて実施された全国介護実態調査(1968年、全社協)では特別養護老人ホームは全国に4,500床しかなく、介護のすべてが「嫁・妻・娘」という女性/家族の手に委ねられていた。ホームヘルプやデイサービスなどほとんど未開発のときだ。福祉制度といえどごく限られた救済的かつ差別的、まったく周辺化された施策に過ぎなかった。介護保険制度はこうした環境を劇的に変えた。介護サービスを取り込む暮らしが一般化し、介護サービスを利用することが恥だとされるような時代があったことももう過去の話だ。

### ●「ながら介護」の一般化

そして三つ目が、「ながら介護」という介護のカタチだ。介護に専念し得る家族の存在こそがこれまでの在宅介護を可能ならしめてきた。家族介護は日本社会の美風でありかつ介護の含み資産だといわれてきたのも、この「介護に専念しうる家族介護者」があればこそであった。3世代・4世代同居・近居という大家族から核家族化・単身家族化への劇的な移行、そして女性の就労や社会参加の進展は、介護に専念し得る家族を失くした。

今増えている介護する家族の実態の多くは次のような「ながら」の介護である。①別居・遠距離で通い「ながら」介護する、②子育てし「ながら」介護する、③修学・就活・婚活し「ながら」介護する、④通院・通所し「ながら」介護する、という実態である。本稿の主題となった、働き「ながら」配偶者や親を介護するワーキングケアラーたちはこの



「ながら」介護という時代のもっとも典型ともなっているといえよう。



ケアメンサミットワークショップ

### ● 「働く介護者（ワーキングケアラー）」

就業構造基本調査（2012年）から「働きながら介護する」という介護者の実態を読みとると次のようになる。

まず有業者視点からは、①有業者の約20人に1人（4.5%）は介護している、②50歳後半の有業者の10.1%は介護している、となる。

無視できる数字ではないがそれでもまだ働いている人の中で介護する人はマイノリティだ。だが、これを介護者視点から読みとると次のように驚愕の実態となる。

③この調査で示される全介護者（557万人）の半数以上（291万人：52.2%）は働いている、④60歳以下の介護者で、男性84.7%、女性59.3%は働いている、⑤50歳代の男性介護者の88.3%は仕事をしている、というのだ。

介護者のマジョリティはもうすでに有業者・「介護しながら働いている」人たちなのだ！

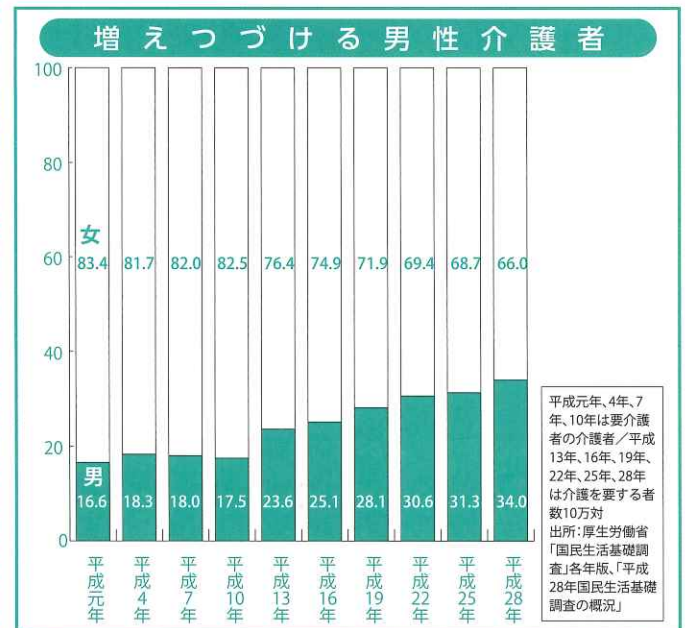
私たちの介護政策は「介護者の多数派は働いている」という環境に適合しているのでしょうか。働きながら介護している人がいないわけではないが、それは家族資源と職場環境に恵まれた特例的な人たち、介護者の多くは介護に専念している、という旧態然たる前提で介護政策が設計されているのではないか。

### ● 「感謝です」一定年退職を迎える介護者

ただ、こうした困難な環境下でも「新しい介護実態」が切り拓こうとしている仕事と介護の両立支援も見逃していけない。次に示す事例は私たちの「男性介護体験記（2009年発行）」に寄せられた一文だ。

『妻の認知症発生から7年、いま「要介護4」のほとんど全介助の状態だ。1年半前からディサービスを利用しながらなんとか仕事を続けてきた。ディの迎えが来る前は分刻みの

忙しさだ。早くに起床し、朝食の準備・食事・片づけ・着替え・歯磨き・洗顔・化粧。その間に何度もある妻の「訴え」には丁寧に！ “焦るな！ 急がば回れだ！” と言い聞かせている。ディのお迎えと同時に自分は出社する。通勤電車での1時間が一番ゆっくりできる時間だ。会社に着いたら、気持ちを切り替え仕事に集中する。このことで介護のストレス発散に役立っている。終業時間は、ディサービスの終了（午後5時）に合わせて、二時間の休暇をとって早退している。会社には何かと迷惑をかけている。早くから妻の若年認知症のことを告白していたのだが、会社や同僚の理解と協力があったこそだ。帰宅したら、慣れない主婦業。調理しているとき「お父さん、疲れない？」「私ができないからね（泣）」。「お父さん、おいしいよ」——妻のこんな言葉に疲れも吹っ飛ぶ。食事のあとも、片付け、食器洗い、ゴミ処理、風呂掃除、入浴介助…。こんな生活もあと2か月。定年退職を迎える。仕事を辞めようと思って2年。でもディの皆さん、職場のみんなのおかげで定年を迎えることができる。感謝です』（筆者要約）



### ● 「働き方」「生き方」のモデル

定年退職を迎えるといって感謝するこの人の周囲には多くの支えがあった。十分とは言えない職場や介護の環境ではあったに違いないが、これまで発見され尊重されることもなかったような「働きながら介護する」ということが内包する「働き方」「生き方」の豊かなモデルが提示されているように思うのは私だけではないはずだ。仕事と介護の両立支援の根源は、「新しい介護実態」のリアリティー、想定外の介護者の出現、介護サービスの社会化、「ながら」介護の一般化——を把握することから始まるといってもいい。



こんにちは  
理事です

## 堀江紀一さん

日本ケアラー連盟理事／こころの健康を考える世田谷区民会議

### ●こころとからだの緊張をほぐす町

こころとからだの緊張をほぐす町——この町では月一回土曜の午後「ここからカフェ」が開かれます。笑いヨガや二胡の調べ、太極拳と多彩で、講師は5年で50人超。

今月の歌唱指導はF歌劇団のメゾソプラノで4年目です。ハーモニーに溶け込んで至福です。落語の師匠来年のお題は「傾聴」。次回が待たれる野菜ソムリエ（テーマは放射能に強い食事）は仏パスツール研究所に行ったきり。

失敗もあります。ダンス講師のアップテンポ選曲で退院直後のご婦人は心配顔のご主人とUターン、アッ…。

脳・脊椎対策は気功・ヨガ、整体、音楽。第二の脳（腸）は漢方。第三の脳（皮膚）はマッサージです。誰でもできるほぐしの技術を開拓中です。

### ●まちづくりとしての地域包括ケアは前代未聞の挑戦

カフェ1号店は社協が無償で場所提供していますが、2号店は銀行の提供で、自由が丘との隣接地に準備中です。

講師謝礼1万円／月は保健所健康推進課、スタッフは傾聴グループや福祉ネットのボランティアと当事者や家族です。

カフェ活動の人々は地域包括支援センターを注視していますが、実態は「包括」内では精神の相談に対応しきれません。これまで専門家の囲い込みでしたから。

これから収容型医療福祉を当事者や市民の知恵でまちづくりとして抜本再出発する時期が来たのですネ。

### ●「最不遇の人に共感を持つヒト」を掘り起こす

すべての人の生き方はウェルビーイング、地域住民との協働はオープンダイアログ、当事者への接し方はマインドフルネスが先進国共通の必須コミュニケーション技術です。

そのうえに必要な思想「最不遇の人に共感をもって一緒に生きていけるか？」が問われています。

この町では分子生物学から進化論、研究者から臨床家、市民、行政一人ひとりが人間科学再生に挑戦中です。

こんにちは  
会員です

## 大塚加奈さん

日本ケアラー連盟会員／医療相談員

### ■心身ともに家族の負担が大きい退院後の療養生活

私は茨城県常総市内の病院で医療相談員をしています。それ以前は高齢者施設の相談員をしていました。

仕事から、退院後の療養生活についてご家族から相談を受けることが多いのですが、退院までのそう長くない期間でさまざまな課題を解決し今後の見とおしを立てることは、精神的にも肉体的にも本人・家族にとって大きな負担となっています。

同居・別居それぞれのたいへんさがあり、ご家族自身の子育て中や闘病中、すでにほかの家族を介護中であつたり、これまでは患者ご本人から支援を受けていたのに急に立場が逆転してしまったご家族もいらっしゃいました。

ご家族の苦悩は、患者の今後の生活を守りたい気持ちと、それを可能にするために求められるさまざまな負担との調整の難しさにあると感じています。

### ■「ここにあった!」と思ったケアラー連盟との出会い

一方でご家族の抱えている問題を把握しながらも十分に支援できていない自分にもどかしさを感じていたとき、日本ケアラー連盟を知りました。“ケアラー支援とはケアラーがケアを担いつつ、その人自身の人生を——継続性を失うことなく——生きられるよう支援すること”という理念に触れ、ここにあった! とほんとうに嬉しく、気持ちがずっと前を向いた気がしました。

患者主体の支援でありつつ、同時に家族という主体に必要な支援制度・支援機関へもつなげられる、そのスキルをもっと身につけたいと思っています。今は双方向的支援でそれぞれの主体性を担保しつつも、家族がケアラーという主体的な立場で直接支援を受けられる社会環境が一日も早く整備されることを願ってやみません。

私にできることは何か、ケアラー連盟の皆さまから多くのことを学びながら、考え、めざしていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。



## ●2017年度定時総会を開催

日本ケアラー連盟は、6月25日(日)上智大学内において、2017年度定時総会を開催しました。正会員(正社員)54名中、出席者18名、委任状21名と合わせ、39名で成立。第1号議案から第5号議案まで原案どおり採択しました。

2017年度の活動計画は、①介護者支援のための法制化を含む政策立案・提言活動：介護者の生活支援や独立した人間としての権利を尊重するため、「ケアラー支援推進法(仮称)」の具体的提案と早期成立に向けた取り組みをはかる、②ヤングケアラープロジェクトによるヤングケアラー支援推進体制づくり：学校におけるヤングケアラー発見や調査、アセスメントなどの取り組み推進をはかる、スピーカーズバンクを充実させるの2本を中心にすえました。

また、2017年度からは、代表理事4名・理事9名・監事1名の役員14名体制で進めていきます。代表理事は堀江紀一さんが退任され、あらたに児玉真美さんが就任しました。津止正敏さん、堀越栄子さん、牧野史子さんとともに代表理事4名の体制です。

## ●事務所を移転しました

8月9日、新事務所に移転しました。新住所は新宿区新宿1-18-10橋場コーポ305号、もより駅は旧事

務所と同じ新宿御苑前駅です。電話番号・FAX番号は変更されません。

## ●リーフレットも新しくしました

新事務所に移転および理事新体制に合わせ「ケアラー支援法推進リーフレット」「ケアラー連盟紹介リーフレット」の第2版を印刷しました。掲載データも一部更新しています。地域での活動や学習会などでキャンペーン資料としてご活用をご希望の方は、必要部数を送料負担のみでお送りしますので、メールまたはFAXでご連絡ください。

## ●12月10日条例づくりフォーラム

2017年度のケアラー支援フォーラムは12月10日(日)に水道橋駅近くの全水道会館で開催します。今回のフォーラムは地方自治体の議員・職員・市民による「ケアラー支援条例づくりワークショップ」を行う予定です。準備のために9月23日(日)、10月27日(金)の2回にわたって首都圏の地方議員によびかけて打ちあわせ会議を行いました。



## 《日本ケアラー連盟は、いっしょにケアラー支援の活動をする仲間を求めています》

日本ケアラー連盟は、ケアラー、ケアラーを気づかう人、ケアラーのかかえる問題を社会的に解決しようという志をもつ人びとが集い、ともに生きる社会をつくることをめざします。

### ●会員になるには

一般社団法人日本ケアラー連盟の目的および活動に賛同してくださる方(個人)は、どなたでも申し込みできます(会員は法的には「社員」と呼ばれます)。

《年会費》正会員(社員)：5,000円/年 \*総会の議決権があります。  
応援会員(個人)：1口 2,000円/年  
応援会員(団体)：1口 10,000円/年

《定款》 <http://carersjapan.com/images/teikan.pdf>

《入会申込み》 FAX (またはEメール)でお申し込みください。

<http://carersjapan.com/membership.html>

\* FAX 番号、メールアドレスは用紙に記載してあります

### ●寄附をするには

一般社団法人日本ケアラー連盟は、会費と寄附により運営されています。1口3,000円から、何口でもご寄附いただけます。

《寄附申込み》 FAX (またはEメール)でお申し込みください。

<http://carersjapan.com/membership.html>

\* FAX 番号は用紙に記載してあります

### 【会費・寄付金入金先】

郵便振替 口座番号：00100-9-789904

加入者名：一般社団法人日本ケアラー連盟

銀行振込 みずほ銀行新宿中央支店 口座番号：2958743

(普通) 口座名：一般社団法人日本ケアラー連盟